

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立海津明誠高等学校 学校番号 30

I 自己評価

1 学校教育目標	生徒一人一人を大切に、自ら学び自ら考える力を育てるとともに、心豊かな人間性を育成し、心身ともに健康で社会に貢献できる人間を育てる。		
2 スクール・ポリシー	<p>『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自ら挨拶する明誠高生」 自他の生命と人格を尊重し、多様な個人と文化を理解することのできる、思いやりをもってコミュニケーションを行うことのできる生徒 ・「積極的に学ぶ明誠高生」 様々な社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓くために、自分で目標を設定し、なりたい自分の姿を思い描きながら、生涯を通して学び続けることのできる生徒 ・「ふるさと、海津に貢献する明誠高生」 地域に唯一の高校で学んでいることを自覚しながら、地球的規模の視点から、地域の持続可能性に対する理解を深め、地域の人々と連携・協働して社会貢献できる生徒 	<p>『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通科・ビジネス情報科・生活デザイン科の3つの学科がある学校の特色を生かしたふるさと教育の推進 ・探究的な学習過程を重視し、主体的・対話的な深い学びの機会を充実 ・ICT活用授業、習熟度別授業や少人数制授業により基礎学力の定着を図り、多様な進路希望を実現 ・商業に関する専門的な知識と技術を身に付けさせて資格取得を図り、多様化するビジネス社会に対応できる能力と態度の育成 ・地域に根差した福祉活動や交流活動、体験的な学習、資格取得や各種コンクールへの挑戦を通して、生活における様々な課題解決力と職業観・倫理観の育成 	<p>『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規則正しい生活を送り、ルールを守り、誠実な態度で高校生活を前向きに送り、自分を成長させようとする意志をもった生徒 ・学習や学校内外の諸活動において、自分の可能性を信じて実践を進展させたり、新たにチャレンジしたりしようとする生徒 ・傾聴する姿勢、自分の考えを伝える力・様々な見方や論理的な考え方を身に付けようとする生徒 ・地域とのつながりを大切にし、地域の担い手となって、よりよい社会を築いていこうとする思いをもった生徒

3 評価する領域・分野	◇ふるさと教育
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>○外部評価アンケート（令和3年度実施のもの）実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全生徒および保護者にメールを送付、WEBで回答。 ・保護者、学校運営協議会委員では167人、生徒は190人が回答。 ・実施方法の変更により、前年度比での評価が低下。 <p>○アンケートの結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ボランティア活動の大切さを教えるとともにその機会を提供している」という項目は生徒と保護者で結果が大きく異なった。 <p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度よりも評価が高くなった。コロナの影響が残るものの、ボランティアの募集も少し始まり、参加する生徒もいる。 <p>【保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動の大切さを教えるとともにその機会を提供しているという項目は令和2年度に引き続き、低評価である。また、わからないと答えた保護者は3分の1である。
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>◇生徒一人一人が主役となって活躍できる活動を行う。</p> <p>◇地域連携による活力ある高校づくりを推進し、地域に貢献する意識や精神を養う。</p> <p>◇地域とのかかわりを大切にし、外部講師による講義や実習、現場体験学習、交流活動などを通して主体的・協働的な学習とコミュニケーション能力の育成を図る。</p> <p>◇ボランティア精神を養い、思いやりの心をはぐくむとともに、地域社会人としての自覚を高める指導を行う。</p> <p>◇ICT及びWEBを活用した外部との取り組みを推進する。</p>
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自主性を尊重した企画や行事への参加 ・部活動などを単位としたボランティアへの積極的参加の推進 ・地域連携による活力ある高校づくり事業の推進 ・特別活動部を中心とした海津市内行政機関などと連携による地域連

		携活動の活性化を推進 ・地域と連携した学習活動や行事の企画・立案の組織化	
7	目標の達成に必要な具体的な取組	8	達成度の判断・判定基準あるいは指標
	(1) 地域連携による活力ある高校づくりを学校全体で組織的に推進し、生徒の地域貢献意識を高め、実践力を育成する。 (2) 部活動・生徒会・学校家庭クラブ・MSリーダーズの連携による活動、地域行事やイベントへの参加、交通安全啓発活動などの充実 (3) 広報活動の充実と地域との連携強化		(1) 部活動・生徒会・学校家庭クラブ・MSリーダーズの連携による活動成果 (2) 学校ホームページの充実・更新。新聞などへの掲載 (3) 地域行事やイベントへの参加 (4) ふるさと教育事業への取り組み (5) ICT及びWEBの活用推進
9	取組状況・実践内容等	10	評価視点
	・情報処理科の課題研究では、行政、地域事業者や報道関係者と連携して、新たな企画を立案実施した。 ・生活福祉科では、地元の障がい者施設や高齢者施設との交流をし成果を上げた。 ・外部講師の活用、地域との連携活動から学習を深め、充実させることができた。		①相互の役割を理解し、尊重して取り組みできた。 ②参加生徒が創意工夫を発案し積極的に取り組んでいる。 ③地域との連携は地域や生徒にとって有意義であったか。 ④継続的な活動であるか。
		11	評価
			A (B) C D (A) B C D (A) B C D A (B) C D
12	成果・課題		総合評価 A (B) C D
	○「まちゼミ」活動では、地域産業事業者と連携して、海津市と市内商店街活性化のための積極的な提案や取材活動、まちゼミ活動を行うことができた。開講講座の企画から実施まで、まちゼミサポーター担当校として全事業者が参加者に提供する景品缶バッジ製作も責任もって対応できた。 ○課題研究では、海津市内のさぼう遊学館やBBQ施設の活性化に取り組み、イルミネーションイベントを企画・開催することができた。 ○地域の福祉施設との交流では、その後の学習活動に結び付けることができ、新たなつながりも持つことができた。特に、認知症カフェでの活動は、継続的に地域の方との交流を持てるようにしていきたい。 ○市内の高齢者向けの「はなみずき新聞」の発行は、民生児童福祉委員会の皆様より、地域の見守りに行く際の話のきっかけになると好評であった。 ▲校内における地域連携への関心が薄く、それぞれの担当者が頑張っている状況である。それぞれが活動しやすいように、活動のバックアップ体制を作り、地域連携が持続可能な活動になるような組織作りが必要である。 ▲海津市唯一の高校として、海津市との連携強化を図っていくことが急務であると感ずる。		
13	来年度に向けての改善方策案		
	・海津明誠高校ならではのふるさと教育プログラムを策定する。 ・学校生活で得た知識技能により、地域での課題解決に向けた、思考力や表現力などに活かす実践力を身に付けた人材を育成する。 ・学習内容を深めた発展的な地域連携となり、効果的な学びの機会となるよう、育成したい生徒像や生徒の視点に立った校内外の行事などの見直しをする。 ・著作権に注意しながら学習取組の発信手法を検討し、外部に向けて積極的なPRの充実を図る。 ・ICTやWEB環境を取り入れて、各団体や海津市と共に実践連携を深める。 ・広報活動を充実させる。		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年1月18日

【意見・要望・評価等】

- ・コロナ禍での企画及び実施で苦勞が多い中、いくつかの連携事業を開催できたことは評価できる。今後も海津市等との連携を強化してほしい。
- ・海津市の魅力を調査することを通して今後も地域を愛し、地域に貢献できる人材を育成してほしい。